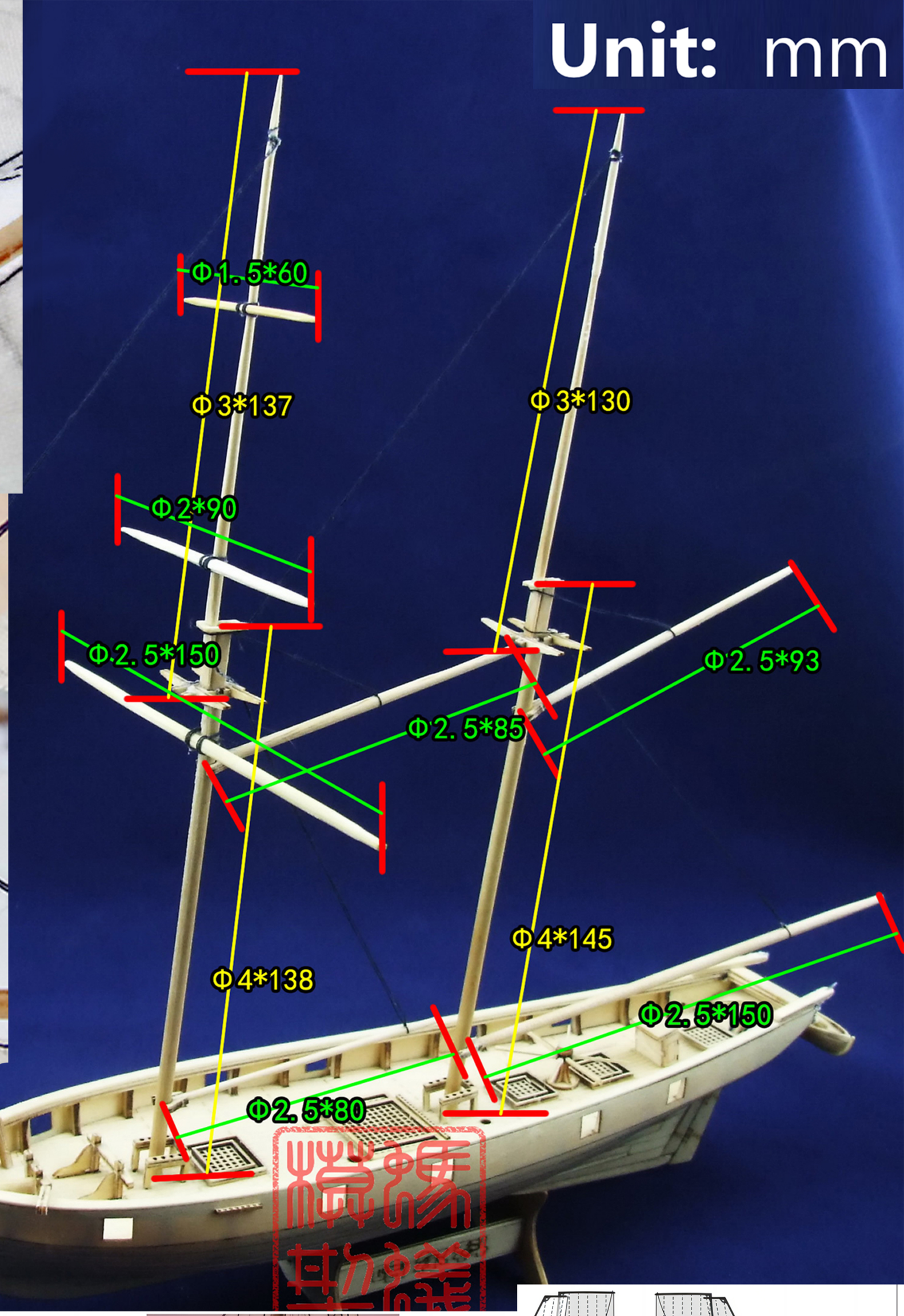
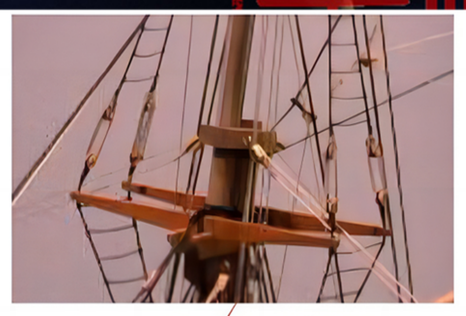




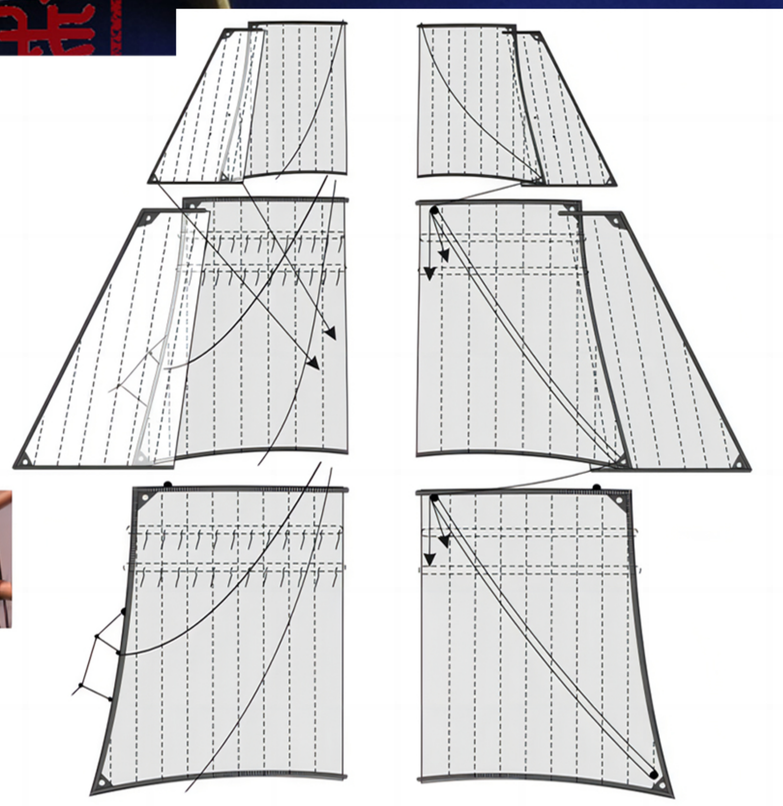


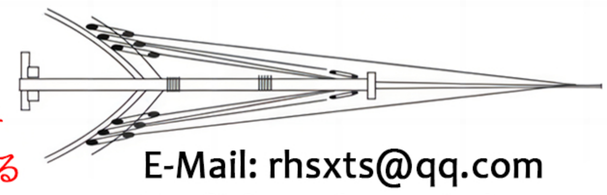












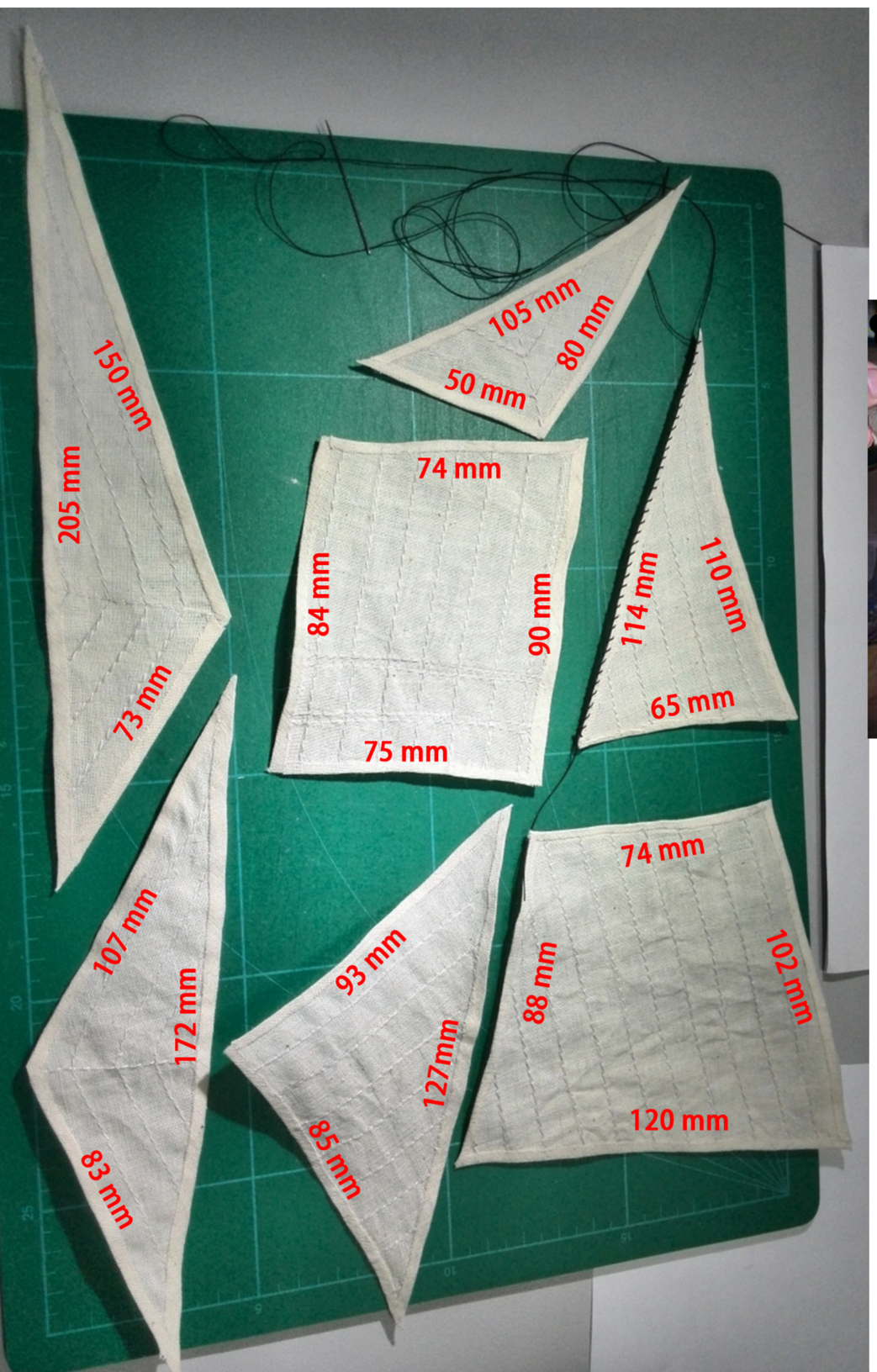
帆ロープの配線は複雑で、レイアウトが多く含まれていますが、ここでは展示されていません。YuCenのウェブサイト上の1:96バージョンなど、他のバージョンを参照することができます。帆ロープが複雑な配線を採用している場合は、3つの目（穴）プーリ、1つの穴、2つの穴プーリなどのプーリアセンブリを購入することをお勧めします。

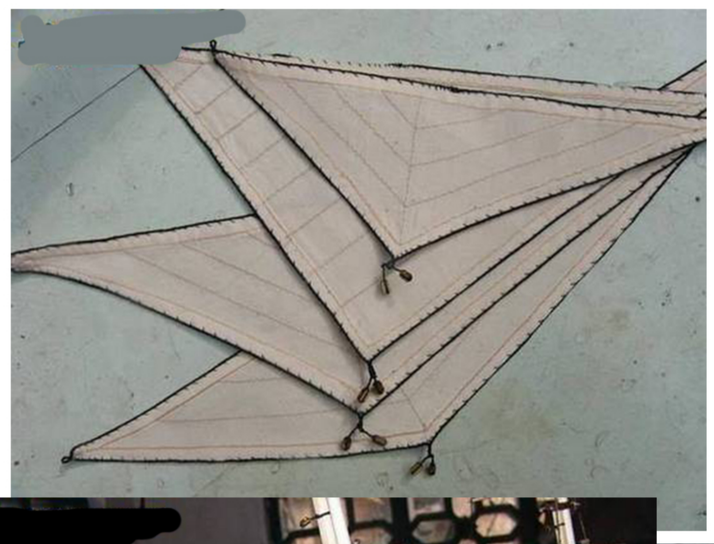
E-Mail: rhsxts@qq.com
English as the main language

警告：この材料はこのモデルで製造された主な材料のみを提供し、モデルは購入者自身で加工して創作する必要があります。加工や製造の種類や方法は多く、本文に記載されている方法はその1つまたは複数にすぎない。本キットは主に思考分析能力、問題解決能力と着手能力を鍛える。また、より美しく洗練された外観を求めている場合は、自分で部品を作ったり、他の材料や部品を購入して加工組み立てたりすることができます。



船のキャンバスは自分で線を作る必要があり、端は折り畳むことをお勧めします。船帆布のライン加工は編み針編みや機械編みなど、方法は多い。







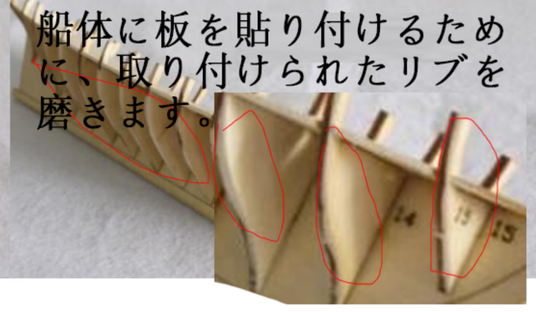




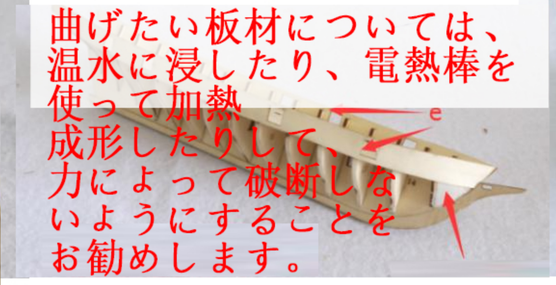


対応する番号に従って竜骨にリブを取り付けます。

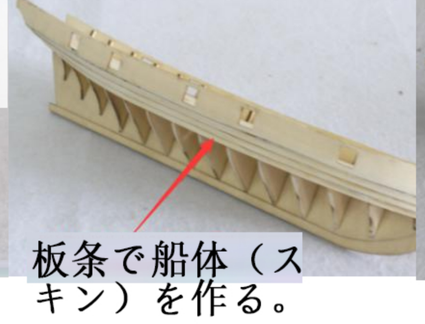
注意:
接着剤で接着しないで、確認してから接着剤を使用してください！



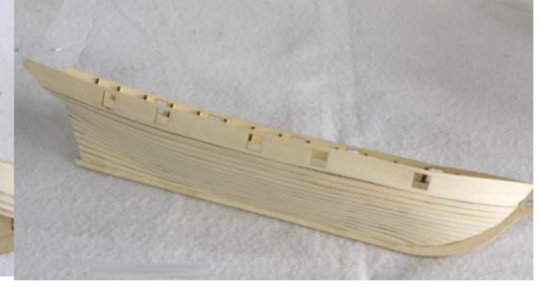
船体に板を貼り付けるために、取り付けられたリブを磨きます。



曲げたい板材については、温水に浸したり、電熱棒を使って加熱成形したりして、力によって破断しないようにすることをお勧めします。



板条で船体（スキン）を作る。

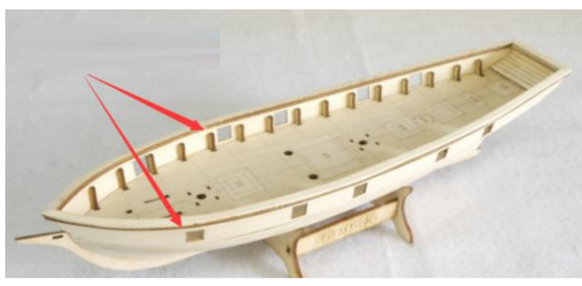






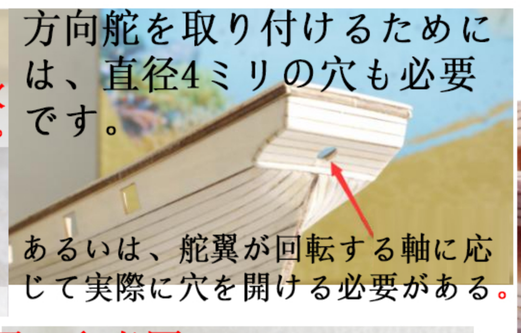


船体の木の棒で尾部を飾り、サイズに合わせて縫合した。





船首マストを積載するためには、船首の中心に直径4ミリの穴をあける必要がある。

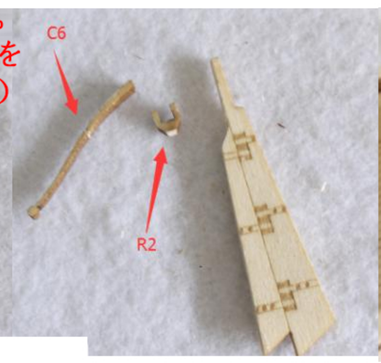


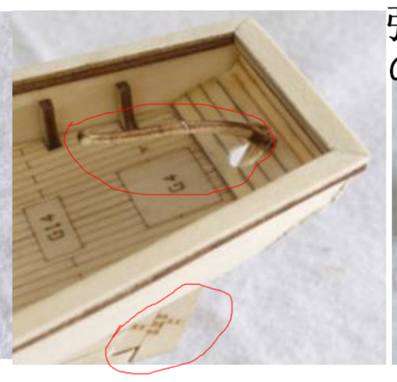
方向舵を取り付けるためには、直径4ミリの穴も必要です。

あるいは、舵翼が回転する軸に応じて実際に穴を開ける必要がある。

船舵部材参考図。
（線を引くと金属片を増やすことができる）







弾薬庫の組み立てが完了したら、G14の位置に取り付けます。

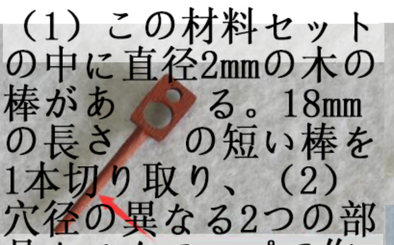




砲車の取り付け位置は参考図のようになっている。ヒント：このキットの大砲は木製です。真鍮の大砲が必要な場合は、単独で購入する必要が　　あります。



（1）この材料セットの中に直径2㎜の木の棒があ　る。18㎜の長さ　の短い棒を1本切り取り、（2）穴径の異なる2つの部品をスクラップで作り、（3）を図に示すように組み立てる。

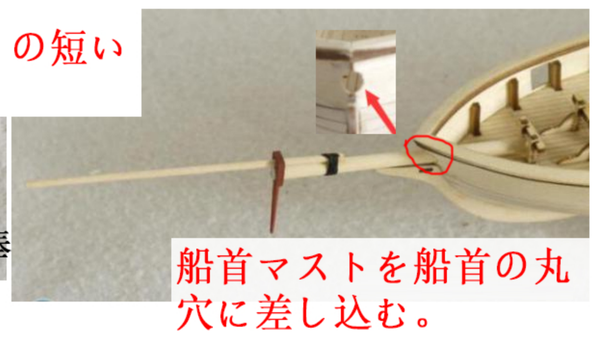


直径4ミリの棒から長さ75ミリの短い棒を切り取る。



太い黒い糸で2本の棒をしっかりと突き刺す。

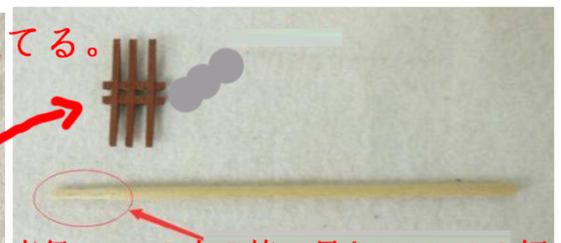
直径2ミリの棒から長さ85ミリの短い棒を切り取る。



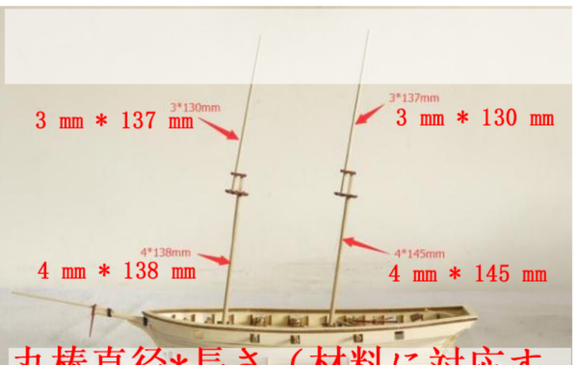
船首マストを船首の丸穴に差し込む。



観測塔を組み立てる。



直径4ミリの木の棒に長さ138ミリの短い木の棒を切ってメインマストとした。注意：短い棒の端を四角く磨いて、塔の穴を通り抜けます。



丸棒直径*長さ（材料に対応する直径の丸棒を見つけ、推奨される長さに切断します。）



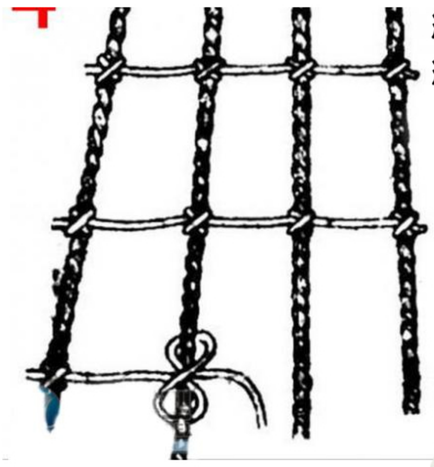
注意：ベゼルは自分で作る必要があります。

ベゼル位置の下に3本と5本の釘（ベゼルの溝に対応）を挿入します。ロープの固定に使用します。



黒い太いロープ。

縄ばしご及びロープの位置決め概略図。



縄張りライラック結び目の編み方。

9字銅釘。すべての銅の釘は自分で作るか、別途購入する必要があります。





この位置で、船首の両側に3本ずつ釘を挿入します。



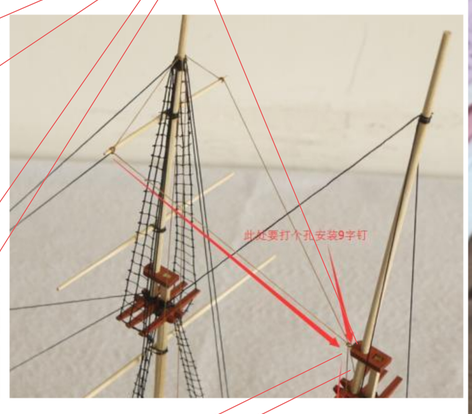


可動ロープを取り付ける。

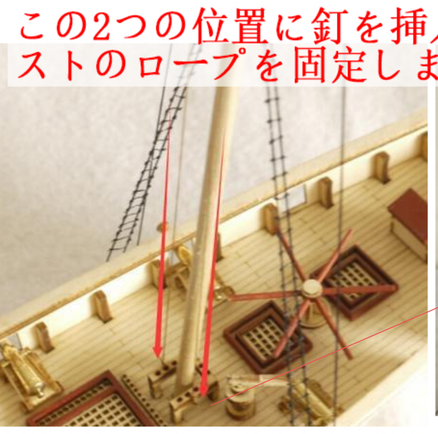


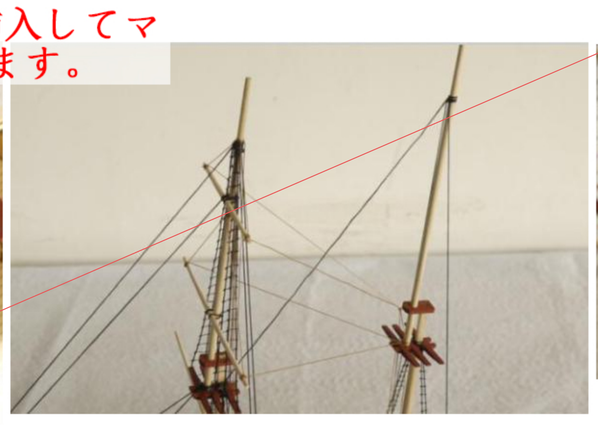
この2つの位置に釘を挿入してマストのロープを固定します。

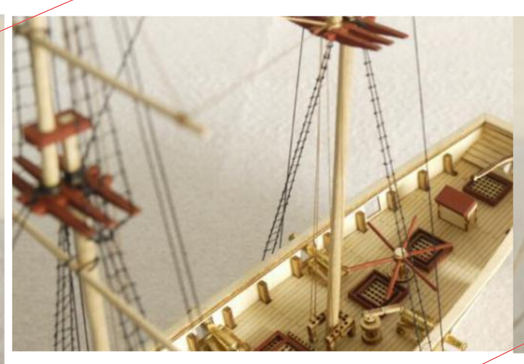




この2つの位置に釘を挿入してマストのロープを固定します。

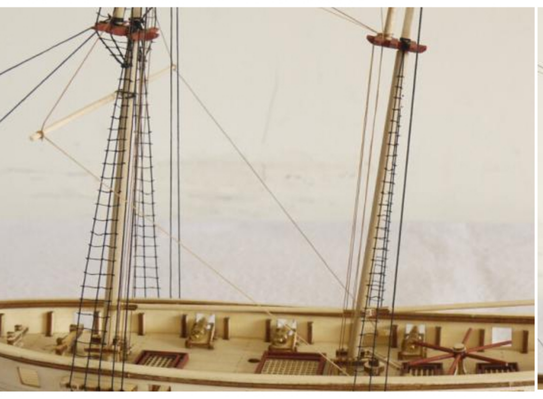














釘を差す。

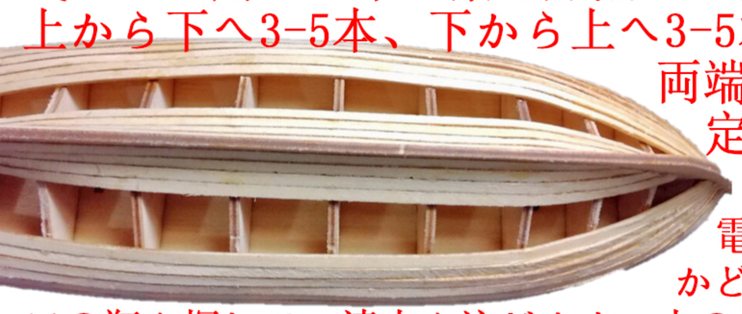
船側両側のこの位置に穴をあけると、アンカーアイと同じ直径になり、挿入が容易になります。

説明に従ってアンカーファームウェアを取り付けます。

アンカーフレームを作成します。アンカーアイの丸穴を通ることもでき、アンカーハンガーは必要ありません。

船体木条の接着：この材料は低コストで流行しているタイプであるため、船体は1層しかなく、1層の船体を完成するだけで船体の接着作業を完了することができる。

注意しなければならないのは：1。船首付近の湾曲度が大きいため、船体の木の条に直接付着しにくく、無理な湾曲は木の条を破断しやすい。この場合、船体の湾曲に適応し、船体貼り付けプロセスを成功させるためには、電気こてを用いて木の条を加熱し、湾曲させる必要がある。2.貼り付け順序：上から下へ3-5本、下から上へ3-5本貼り付け、サンドペーパーで中間部分を両端が徐々に狭くなり、中間が正常な板条に剪定する。



まず、50ワットのこてが必要です。使用前に、電線接続の安全性とハンドルが完全に絶縁されているかどうかをよくチェックしてください。そして、大きな口の瓶を探して、清水を注ぎます。木の棒の端を水に浸して、完全に濡らす。次に、木の棒を取り出し、加熱したこてで木の棒が曲がる必要がある場所をゆっくりと繰り返し加熱します。同時に、木の棒を厚い板の上に置いて、電気こてで加熱して、手で成形することができます。あるいは、こてをスタンドで傾けて固定することもできます。そして、木の棒を両手で持ち、上部を左右に動かして曲げ変形させます。注意しなければならないのは、どのように処理しても、電気的安全と火傷防止に注意しなければならない（図16）。木の棒を曲げる過程で、過度な曲げを避けるために、船体と絶えず比較する必要がある。同時に、局所的に高温で炭化して使用できないことを防ぐために、板条を絶えず移動しなければならない。

板の棒が曲がったら、最初から貼り付けることができます。まず、加工した端を甲板の縁に置き、先端を充填木に置き、竜骨に密着させる。指で押さえて、背面の木の方向をチェックします。デッキとほぼ平行になるはずです。先端に不規則な領域がなければ、接着剤で先端を固着することができます（図17）















木の棒を加熱したり曲げたりする方法のほか、釘で固定したり、接着したりすることもできます。他にも自分で考えて実践する方法はたくさんあります。

船体にはモルタルやモルタルを塗ることもできます。



研磨と仕上げ

船体やアセンブリを着色する方法はたくさんありますが、ここにはこれらの方法はリストされていません。









